

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平9-252911

(43) 公開日 平成9年(1997)9月30日

(51) Int.Cl.<sup>8</sup>

A 47 G 21/10  
21/12

識別記号

庁内整理番号

F I

A 47 G 21/10  
21/12

技術表示箇所

B

審査請求 未請求 請求項の数1 書面 (全2頁)

(21) 出願番号

特願平8-106000

(71) 出願人 596058155

田辺 冬樹

山梨県東八代郡一宮町坪井204番地9号

(22) 出願日

平成8年(1996)3月22日

(72) 発明者 田辺 冬樹

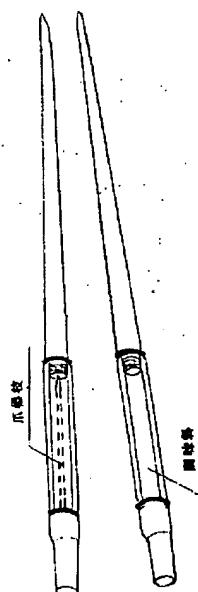
山梨県東八代郡一宮町坪井204番地9号

(54) 【発明の名称】 爪楊枝や調味料を携帯できる箸

(57) 【要約】

【目的】 従来、箸と爪楊枝や調味料は小量でも別々の容器にいれて使用していた煩わしさを箸と容器を一体化することで携帯に便利にした。

【構成】 箸1と容器2がネジ部3により接合され、容器2の蓋5もネジ部4で接合され、各々の部分が脱着可能にし、ネジ部3・4の部分はパッキン6により内外ともに異物の混入を防ぐ。容器2は、中身が見える透明容器である。



1

2

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】箸の上部に爪楊枝や調味料が携帯できるよう容器を取り付けた箸

## 【発明の詳細な説明】

【0001】本発明は箸の上部に中身の見える透明の容器を取り付けて、その中に爪楊枝や調味料などを入れられるようにした箸になっている。本発明の容器の蓋はネジ式で、振動などで容易に取れることなく、なおかつ、蓋と容器、容器と箸との間には、パッキンを取り付けて水溶性の調味料が漏れるのを防ぎ、又、逆に湿気や水分等が入らないようにしたものである。又、容器が簡単に洗えるように箸と容器とが、ネジ式で脱着できるようにして、常に清潔に使えるようにしたものである。

【0002】従来、箸は食物をはさむだけで、爪楊枝や調味料は小量でも別々の容器を用意しなければならなかつた。

【0003】本発明は、小量でも別々に用意するという煩わしさを少しでもなくし、屋外に出た時も弁当のメニ

10

ューに応じた品物を携帯させた箸として便利に使えるようにしたものである。それを図面によって説明すれば、箸1と容器2がネジ部3により接合されている。容器2と蓋5もネジ部4で接合され、各々接合部にはパッキン6があり、中身の漏れ又は湿気や水分等の混入を防いでいる。さらに、容器2は透明で作ってあるため、中身の様子がわかるようにした。

## 【図面の簡単な説明】

【図1】容器と箸の立面図である。

【図2】容器と箸の分解図である。

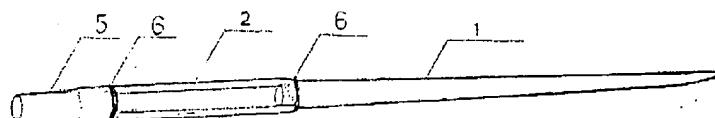
【図3】爪楊枝を収納した箸の立面図である。

## 【符号の説明】

- 1 箸
- 2 容器
- 3 ネジ部
- 4 ネジ部
- 5 蓋
- 6 パッキン

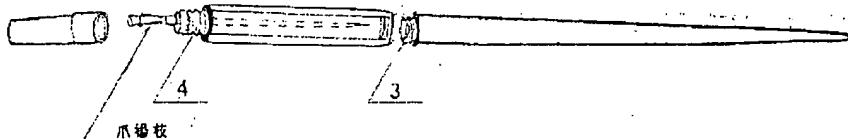
【図1】

(図1)



【図2】

(図2)



【図3】

(図3)

